

令和4年度 輪光福祉社会事業報告書

令和5年3月31日
社会福祉法人輪光福祉会

令和4年度は、新型コロナウイルス・オミクロンの感染が拡大して全国的に猛威を振るっている状況で、当法人もこども園と輪光無量寿園でクラスターを経験し、大変な状況でしたが、現在では少しずつ落ち着いている兆しが見えます。このような状況の中にこども園・介護保険事業・障害事業では、新型コロナウイルス感染対策として、毎週の感染対策会議を通じ共通認識し、利用者へ安心したサービスの提供につなげてきました。運営面は、介護・障害が厳しい状況の中に輪光無量寿園やこども園ともにご利用者様や園児の皆様には感染対策として行事の縮小等を行い、外部の参加を控え、ご利用者と職員での取り組みを実施し、ご利用者様・園児等へのストレスが溜まらない様に対応してきました。又、持ち込まない為の窓越し・Web面会や入室制限等・手洗いうがい・体温測定・マスク着用(確保)・手指消毒(消毒液等の確保)を継続徹底し、他県等の往来や接触等・外出自粛や休暇等の過ごし方をご利用される方や職員へも国の方針に沿い現在も続けています。今後も新型コロナウイルス感染対策が重要とされると思いますので、持ち込まないという事を全職員へ周知するような対応を行い、感染者を出さない様に取り組んでいながら少しずつご利用者の対応や行事等においても緩和を行いながら家族等への参加の働きかけを実施していきたいと思っております。

次に各事業実施状況について

介護・障害部門で特養は、空床改善や入院者減への取り組みを実施し改善傾向になりましたが、入所への切替や12月末からの新型コロナの感染が増えた事でのショート中止等が原因で稼働が厳しい状況でした。入院が昨年対比として延べ約421日減少し、年間入院実人数105人の延べ入院日数1,663日で改善されています。特養平均稼働が3月末現在で94.1%(全体が92.4%)⇒昨年91.0%で1.4%のupの状況でした。特養の1日平均利用者は、多床50人に対し46.6人・ユニット40人に対し38.1人で、退所者は24名(うち死者19名・長期入院者5名・施設退所0名・在宅0名)で昨年より1名増でした。ショートステイは9人定員に対し、月平均6.7人でした。今後も新型コロナウイルス感染対策の標準予防策を徹底し、入院を出さない対策を看・介護・ケアマネ・栄養・機能の職員で多職種連携・情報共有を徹底し、早めの対応等を行い、入所やショートの新規獲得の為に事業所訪問や情報発信を強化していきます。

通所も同様で稼働が伸びず厳しい状況です。原因は新型コロナウイルス対策での事業所等の訪問制限や課題である送迎の見直し等の体制が出来ていない事も原因とされます。稼働としては、1日平均14.67人(うち予防給付1.9人)・保険外0.3人で、前年対比としても稼働が伸びず厳しい状況です。対策としては、アクティビティの体操等やレク活動を充実させて行い、新型コロナウイルス感染対策を標準予防策徹底しながら稼働改善する為の事業所訪問やキャンペーン等の強化していく事が重要とされます。

訪問は障害の稼働は、介護や障害も少しずつ改善はされていますが、職員配置としてヘル

パーの登録さんを下期に採用でき、少しずつではありますが新規を受け入れるようになり、稼働安定しつつあります。年間利用回数3,624件（内訳：介護1,725件・総合事業511件・障害支援1,189件・保険外199件）の4人体制（登録1人が長期休暇）で取り組みました。今後も新型コロナウイルス感染対策も標準予防策を継続しながら、体制を常勤2・登録4の配置で、質の高い支援に繋げ、ご利用者を獲得していきます。

居宅介護・障害相談においては、新型コロナウイルス感染予防の為の訪問制限があり、モニタや担会を電話等で感染状況みながら対応していましたが、3月からは少しずつ緩和になった状況の対応しとして訪問を増やし対応しています。新規が増えても介護は入院や入所の切替で稼働の目標は達成できませんでした。実績として要介護平均44.6人・予防平均7.8人・総合事業(住民主体型通所)平均5人(保険外1人)の実績でした。障害相談は、介護支援同様に訪問制限での電話等のモニタ・担会で感染状況を見ながら対応してきましたが、3月からは少しずつ緩和になった状況の対応しとして訪問を増やし対応しています。稼働は月平均16.5件で減少傾向にあります。原因としては、相談フォローが確実に行えていない事で事業所変更や情報発信が出来ていない事等が要因と思われます。新規の方の獲得の為に基幹型支援センターなどへの声掛けやグル新規入所で少しずつは増えつつあります。今後も新型コロナウイルスの感染対策の標準予防策を実施しながら、新規ご利用者様獲得に向けて毎月の居宅新聞やパンフレットの配布とサービス事業所と連携を図りながら、行政等への働きかけを行い、ご利用者の皆様が在宅で生活がより長く継続出来る様にお手伝いさせていただきます。

障害者グループホームについては、新型コロナウイルス感染予防の為の感染対策を実施し、外出や帰省制限を継続し、対応してきました。入所としては当初8名の入所で対応しましたが、年途中で1名が県外への移住と就労不能からB型就労への意向で退所となりました。6名の入所の方は、コロナ禍の新しい生活を理解しているものの、数名の方が不安定な時期もあり、不穏はあるものの落ち着いては来ているようです。稼働、帰省は少なかったが、県外移住と自宅療からの退所2名があり75%で24%downの状況です。又、行事等においては集団での実施を感染が少ない時期に日帰り遠足を実施し、コロナ禍の状況を見ながら、帰省や少人数での外出やホーム内で出来るレク等を行い、ストレス解消に努めてきました。今後も新型コロナウイルスの標準予防策を実施しながら、ご利用者の安心安全な生活を提供していきます。

上記でも述べましたが令和4年度は新型コロナウイルス感染対策という事で面会は窓越しやWeb面会を行っていましたが、3月半ばより研修室を使用しての対面での対応をしています。行事については家族や外部の参加もせずにご利用者様と職員だけで特養中心に実施しました。開催行事としては時間短縮や参加者を制限し、運動会・秋祭り（昼間）・夜間想定の日間の消防訓練・やごろうどん祭り見学・テラスビアガーデン（弁当式での取り組み）・輪光介護セミナー（2回とも中止）・ユニット外出等については感染状況を勘案しながら実施しています。職員処遇としては、特定処遇改善手当や処遇改善支援助成金などの支給を行いました。又、職員確保が厳しく、年の途中からの退職や体調不良による休みの不足配置を派遣職員で補いながらも厳しい状況です。技能（インドネシア4名）と特定（インドネシア2名・フィリピン2名）技能実習生も昨年に入職し、不足対策としてシルバー人材活用（3名）や派遣（看護2名・介護3名）・人材紹介・ハローワーク紹介で対応していますがなかなか厳しい状況です。職員の質の向上の為の研修会等を毎月取り組み、職員会議前や定期勉強会は

職員が中心になり研修参加報告を交えての勉強会を行い、安心安全なサービスに繋げていきます。又、特養・通所・訪問・居宅・障害が感染補助金の活用での備品や消耗品の購入を行い、ハード面においては空調の入れ替えや県補助金活用して従来型居室のプライバシー改修工事を20床行い、テーブル等の新規購入などを行っています。人材育成においてはフォローアップの重要性を理解して頂き、指導体制を再構築し、知識向上については県老協等の研修にWebを使って参加しました。

こども部門は、輪光にしか出来ないあたたかく心を添えたまことの保育・教育の更なる充実を図りました。毎日コロナウイルス感染予防対策をとりながら各行事も参加人数の制限や時間短縮・内容の検討等を行いつつ出来る限り皆の思い出に残る意義深い行事が実施できるようにしました。インスタグラムやブログの随時更新、Soo good FM情報誌掲載や生出演での園紹介、ポスターやちらしの配布、子育てサロン(りんりんキッズ)の開催等で情報発信や広報活動につとめました。まことの保育職員研修や見守る保育全国大会への参加、他園の取り組みを見学、職員勉強会等で自主性・自発性を育む主体性保育を学びながら職員の資質向上や保育の質向上をはかり、保護者役員会開催等で保護者のニーズに応えながらより信頼感や満足度が高まるような園運営に取り組みました。

保育実績は、月平均36名で延べ435名（うち、乳児保育は月平均5名で延べ60名）、学童保育実人数11名で延べ1599名、延長保育実人数12名で延べ98名の利用がありました。

輪光福祉会全体として令和4年度も新型コロナウイルス感染対策を徹底しながら、各事業所で連携し、コロナ禍で出来る地域との関わりを考え、地域との関係作りを再構築し、一人でも多くの方々に輪光のサービスを利用する機会を増やしていきます。

最後に、コロナ禍ではありますが、地域との関わりを持つために次年度においては、毎年2回実施している輪光介護セミナーも地域の皆様のニーズに沿った計画立案（感染対策）と開催の可否を思案し、同様にボランティアグループGENKIの活動としての“地域の空き缶拾いや近隣小学校での立哨等”を実施できる様に感染対策等を考えながら地域の方に更に理解して頂くために地域に出向きアピールしていきます。又、“ペットボトルのふたやプラタブの回収”“出前授業”も継続していきます。